

2018年秋学期の全時間訓練のための  
メッセージアウトライン

主題：  
中心的なビジョン

メッセージ 8

一人の新しい人の創造主である奥義的なキリスト——神の奥義的な傑作

聖書：創 1:26. エペソ 2:14-16. 4:22-24

**I. 神が人を創造した意図は、神を表現し代行する団体の人を得ることでした——創1:26.**

**エペソ2:15：**

- A. 神がご自身のかたちに人を創造したのは神を表現させるためであり、またご自身の統治権を人に与えたのは人が神を代行して、神の敵を対処させるためです——創1:26。
- B. 新創造の中で新しい人としての召会は神のかたちを帯びていて神を表現し、また神の王国のために神の敵と戦います——コロサイ3:10-11. エペソ2:15. 4:24. 6:10。
- C. 古い人の中で分裂させられ、散らされているものは、新しい人の中で回復されます——創11:5-9. 使徒2:5-12. コロサイ3:10-11。

**II. 神の詩、傑作である新しい人は、キリストの死を通して、彼の復活の中で創造されました——エペソ2:10, 15-16：**

- A. わたしたちは15節の二つの句に細心の注意を払う必要があります。すなわち「彼の肉体の中で」と「ご自身の中で」です：
  - 1. 「肉体の中で」、キリストは宇宙におけるすべての消極的なものを終結させました。すなわち、神の敵であるサタン、悪魔（ヘブル2:14）、罪（ローマ8:3. ヨハネ1:29）、墮落した人の肉（ガラテヤ5:24）、サタンの邪悪な体系であるこの世、コスモス（ヨハネ12:31）、古い人によって代表される旧創造（ローマ6:6）、律法の分離する数々の規定です（エペソ2:15）。
  - 2. キリストは範囲、要素、実質としての「ご自身の中で」、ユダヤ人と異邦人を一人の新しい人へと創造しました：
    - a. キリストは一人の新しい人、すなわち召会の創造主であるだけでなく、新しい人が創造された範囲であり、要素であり、実質でもあります。
    - b. キリストはまさに一人の新しい人の要素であり、神の神聖な性質を人性と一つの実体とします——参照、コロサイ3:10-11。
- B. 新しい人の創造において、まずわたしたちの天然の人がキリストによって十字架につけられ、次に古い人がはりつけにされることを通して、キリストは神聖な要素をわたしたちの中へと分け与えて、わたしたちを神の働きの傑作、宇宙における全く新しい項目、神の新発明とならせます——ローマ6:6. IIコリント5:17：

1. 「傑作」というギリシャ語は「ポイエマ (poiema)」で、「詩として書かれ、作られたもの」を意味します。
2. 詩的な文章だけでなく、作者の知恵と構想を表現するどんな芸術品も、詩と考えられます。
3. 神の働きの傑作であるわたしたち、召会は、神の無限の知恵と神聖な構想を表現する詩です。召会は、キリストが何であるかのすべての賢い展覧です——エペソ2:10。
4. キリストは神の救いにおける三つの重要なものとして、神からわたしたちに与えられた知恵となりました——I コリント1:30 :
  - a. 義 (わたしたちの過去のための)、それによって、わたしたちは神に義とされました。それは、わたしたちが霊において再生されて、神聖な命を得るためです——ローマ5:18。
  - b. 聖 (わたしたちの現在のための)、それによって、わたしたちは魂において聖別されていきます。すなわち、わたしたちの思い、感情、意志において、彼の神聖な命によって造り変えられていきます——6:19, 22。
  - c. 贖い (わたしたちの将来のための)、すなわち、わたしたちの体の贖いです。それによって、わたしたちは体において、彼の神聖な命によって変貌させられ、彼の栄光の様を持つようになります——8:23. ピリピ3:21。
5. わたしたちがこのような完全無欠の救いにあずかり、わたしたちの全存在—霊、魂、体—をキリストと有機的に一にし、キリストをわたしたちのすべてとさせ、わたしたちをキリストが何であるかの賢い展覧とするのは、神からです。

**Ⅲ. 十字架上でキリストは、隔ての中垣である数々の規定から成っている戒めの律法を、彼の肉体の中で廃棄することによって、ご自身の中で新しい人を創造しました——エペソ2:14-15前半 :**

- A. 15節で語られている律法は、道徳的な戒めの律法ではなく、割礼の規定、安息日を守ること、ある食物を食べることのような儀式的な戒めの律法です。
- B. 規定とは生活と礼拝の形式や方法であり、敵意と分裂を引き起こします :
  1. 十字架上でキリストは生活と礼拝に関するすべての規則、すなわち、諸国民を分裂させてきた規則を廃棄しました——15節. コロサイ2:14。
  2. バベルの時代から、人類は生活と礼拝に関する規定によって分裂させられてきました。召会生活における神のエコノミーにおいて、わたしたちはバベルに打ち勝たなければなりません——創11:1-9 :
    - a. キリストがわたしたちの唯一の源であるべきです。わたしたちは自分たちの背景、文化、国民性を少しも源にすべきではありません——参照、コロサイ3:10-11。
    - b. この世の人々は文化的な違いを威信の源と考えますが、キリストの中でわたしたちはこの威信を失いました。今や、わたしたちの唯一の威信はキリストと真の一です。
    - c. もしわたしたちが進んで自分たちの文化的な誇りを捨てるなら、主が正常な召会生活を持つ可能性があります。

IV. 一人の新しい人のために、また一人の新しい人の中で、わたしたちはキリストの平安に、わたしたちの心を裁定させる必要があります——エペソ2:14前半, 15後半, コロサイ3:12-15, 2:14-18, ローマ5:1, マタイ18:21-35 :

- A. 「裁定させる」というギリシャ語表現は、「審判する」、「つかさどる」、「あらゆることの支配者、決定者としての位に就く」とも訳すことができます。キリストの裁定する平安は、だれに対する不満をも解決します——コロサイ3:13。
- B. しばしば、わたしたちの内側には三者いることに気づきます。積極的な者、消極的な者、中立の者です。このゆえに、わたしたちの内側の争いを解決するために内側の裁定を必要とします :
1. わたしたちの存在中の異なる者が議論し口論しているのを感じる時はいつでも、キリストの支配する平安に地位を譲り、新しい人の一であるこの平安にわたしたちの内側を支配させ、最終的な言葉を述べさせる必要があります。
  2. わたしたちは自分たちの意見、観念を脇に置き、内住の審判者の言葉を聞く必要があります。
- C. わたしたちがキリストの平安に、わたしたちの心を裁定させるなら、この平安はわたしたちの間のすべての争いを解決するでしょう。わたしたちは垂直的には神と平安を持ち、水平的には聖徒たちと平安を持つでしょう :
1. キリストの平安の裁定を通して、わたしたちの問題は解決し、聖徒たちとの間の摩擦は消え去ります。その時、召会生活は甘さの中に保たれ、新しい人が実際に維持されます。
  2. キリストの平安が裁定するとは、キリストがわたしたちの内側で働いて、わたしたちに対する支配を行使し、最終的な言葉を述べ、最終決定を下すことです——参照、イザヤ9:6-7。
  3. わたしたちは位に就いたキリストの平安の支配の下にとどまるなら、人を怒らせたり、傷つけたりしないでしょ。むしろ、主の恵みにより、彼の平安をもって、他の人たちに命を分け与えるでしょう。
  4. この平安はすべての信者を結び付け、結合するきずなとなるべきです——エペソ4:3。

V. 一人の新しい人には、キリストがすべての肢体であり、すべての肢体の中にいます——コロサイ3:10-11 :

- A. わたしたちの中に住んでいるキリストは、一人の新しい人の構成要素です——1:27, 3:11 :
1. キリストが新しい人のすべての肢体であるので、いかなる天然の人（いかなる人種、国籍、文化、社会的地位）も、新しい人の中には何の可能性も余地もありません——10-11節。
  2. わたしたちがどのような種類の人であろうと、一人の新しい人に関する限り、わたしたちはみな何者でもありません。
  3. 一人の新しい人には、ただ一人のパーソン、すなわち、すべてを含むキリストがいるだけです——2:17, 3:4, 11。
- B. 新しい人のために、わたしたちはみなキリストをわたしたちのパーソンとして取る

必要があります——エペソ2:15. 3:17前半:

1. キリストのからだとして、召会はその命としてのキリストを必要とします。一人の新しい人として、召会はそのパースンとしてのキリストを必要とします。
2. キリストは一人のパースンとして、わたしたち全員の中にいます。ですから、わたしたちはみなただ一人のパースンを持っているだけです——ガラテヤ2:20. エペソ3:17前半。
3. 一人の新しい人が実際に存在するために、古い人のパースン全体が脇に置かれなければなりません。また、わたしたちは新しいパースンによって生きなければなりません——ローマ6:6. ガラテヤ2:20. エペソ4:22, 24. 3:17前半:
  - a. わたしたちは、わたしたちの中ですべての決定を下す方としてのキリストをもって、彼をわたしたちのパースンとして取ることによって、新しい人の中で生活する必要があります。
  - b. いったんわたしたちが一人の新しい人の一部分であることを見たなら、自分一人では何も決定することができなくなります。
  - c. わたしたちは団体のからだ、団体の新しい人であり、わたしたちが生きること（パースン）も、わたしたちが動くこと（命）も団体的であることを見る必要があります—— I コリント12:12. ローマ12:4-5。
4. わたしたちは、エペソ人への手紙第2章15節の「一人の新しい人」を、ローマ人への手紙第15章6節の「一つの口」とコリント人への第一の手紙第1章10節の「同じ事を語る」と合わせて考える必要があります:
  - a. 過去とても多くのパースンがあったために、とても多くの口がありました。
  - b. 「一つ思いをもって」、「一つの口で」（ローマ15:6）とは、たとえわたしたちは数が多く、みな語っても、わたしたちがみな「同じ事を語る」ことを意味します（I コリント1:10）。
  - c. わたしたちは数が多く、多くの場所から来ていますが、わたしたちはみな一つの口を持ち、みな同じ事を語ります。このゆえに、わたしたちはみなただ一人のパースンだけを持つ新しい人であるのです——エペソ2:15. 4:22-24. 3:17前半. ローマ15:6. I コリント1:10。

© 2018 Living Stream Ministry